

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

若手生産者による組織が、被害発生直後に迅速に侵入防止柵の設置等による獣害対策を実施。柵の状況やイノシシの痕跡を地図に落とし込むことで改善点を明確化。ドローンの活用による見回りの省力化を図る等により、被害額を大幅に削減。

エコフィールドとみつ

（代表：杉田 ^{すぎた} 康彰 ^{やすあき}）

主な取組

福井県あわら市

- 平成28年秋頃から「とみつ金時」を特産品とする富津地区にイノシシが出没し始め、翌年に被害が一気に拡大。
- 平成29年、若手生産者組織のエコフィールドとみつは、集落役員や関係機関等と協力して集落点検を実施し、その結果を基に、電気柵を中心とした被害防止計画を作成。
- 電気柵の整備状況とイノシシの痕跡を地図上に落とし込むことで、共通認識を醸成。イノシシの侵入経路が変化するたびに地図を更新し、改善点を明確化。
- 傾斜地では電気柵の効果が出にくいことが分かり、金網柵と大規模緩衝帯による対策を実施。隣接施設の金網柵との隙間が侵入経路と分かった際には、話し合いにより柵を設置。
- イノシシを誘引する原因となっていたかんしょ残渣は、共同廃棄場所を設け、電気柵を設置。
- 市の助成事業を活用して狩猟免許取得を促進し、このうち1人が有害鳥獣捕獲隊として富津地区等の捕獲を担う。
- 侵入防止柵の不具合やイノシシの痕跡が見つかった場合はSNS等により情報共有するほか、ドローンを活用して見回りを省力化。これらの取組により、被害額を大幅に削減。

【あわら市のかんしょの被害額】

平成29年度：400万円 → 令和元年度：22万円